大東町の遺跡 N

一久野一

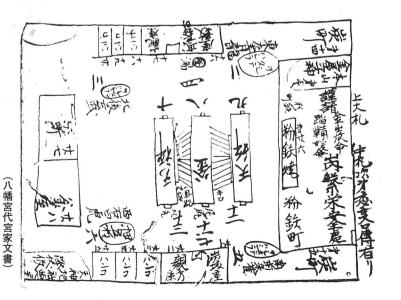
1992年3月

島 根 県 大東町教育委員会





(現 況)



高殿内配置図(一八〇〇年ごろ)

- 1. 本書は大東町教育委員会が、平成3年度国・県の補助を受けて行った大東町久野地区 遺跡の発掘(試掘)調査並びに分布調査の概要報告である。
- 2. 調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 大東町教育委員会 教育長 野々村安生 (後任)小川喜義調査指導 丹羽野裕(島根県教育庁文化課主事) 蓮岡法暲(島根県文化財保護指導委員)

調 査 者 杉原清一 藤原友子

事 務 局 別所武夫 松田 勉 狩野 弘 嘉本史紀 景山修二

- 3. 発掘調査は範囲と性格の確認を目的として、大石原古墓及び段たたら跡とについて発掘を行い、併せて地区内遺跡の分布について行った。
- 4. 調査成果は分布図及び一覧表とし、さらに個別にカードを作製して向後の活用に備えた。なお、遺跡番号は過年度調査に準じた。また、発掘調査については地元に対し見学会も行った。
- 5. 収録した遺跡のうちには既に消滅したものも含む。また古墓は主として石塔に着目して調査を行った。
- 6. 分布調査は踏査による地表の表徴観察によるもので、埋蔵文化財のすべてが網羅し得たとはいえない。
- 7. これらの調査にあたっては、明治22年編成の「字切地図」(大東町行政文書)による小字地名(本書に収録)、及び地域誌『久野のあし音』や口碑伝承等も参考とした。

また、次の方々から情報や資料の提供、又は現地案内等の協力を得た。記して謝意を表します。

久野地区各自治会 久野公民館 景山政胸 椿 武明 落合茂重内田 宏 福間 俊 渡部寛蔵 山本孝義 岩田明信 藤原栄一 大東町税務課・農林土木課

- 8. 発掘調査に関する理学的年代測定については、島根大学理学部伊藤晴明教授・同時枝 克安助教授の労を煩わした。
- 9. 本書に用いた地図は主として大東町農林土木課所管に関わる5千分の1地形図であり、 原則として上方を真北とする。
- 10. 本書の編集・執筆は調査者が行った。

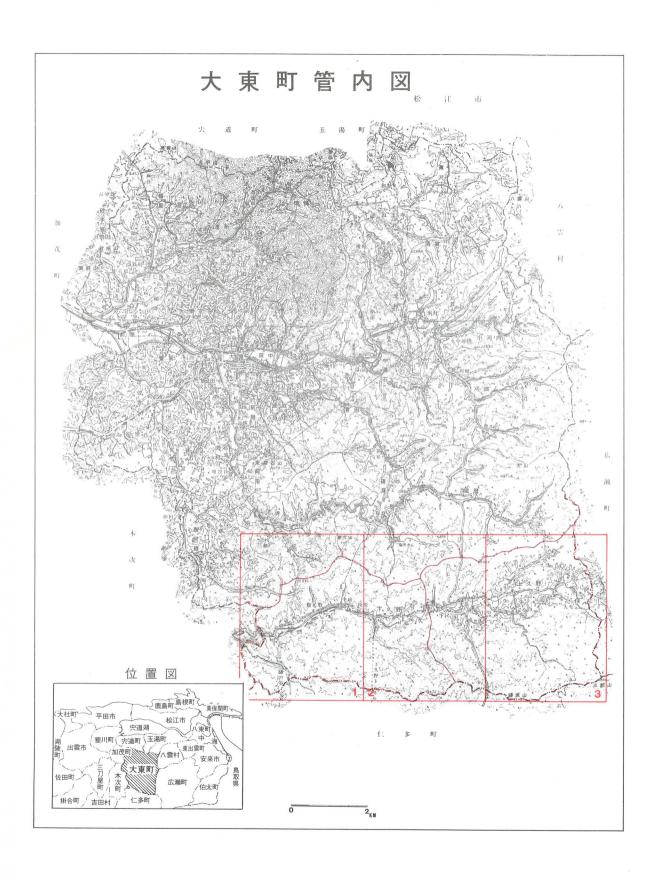
目 次

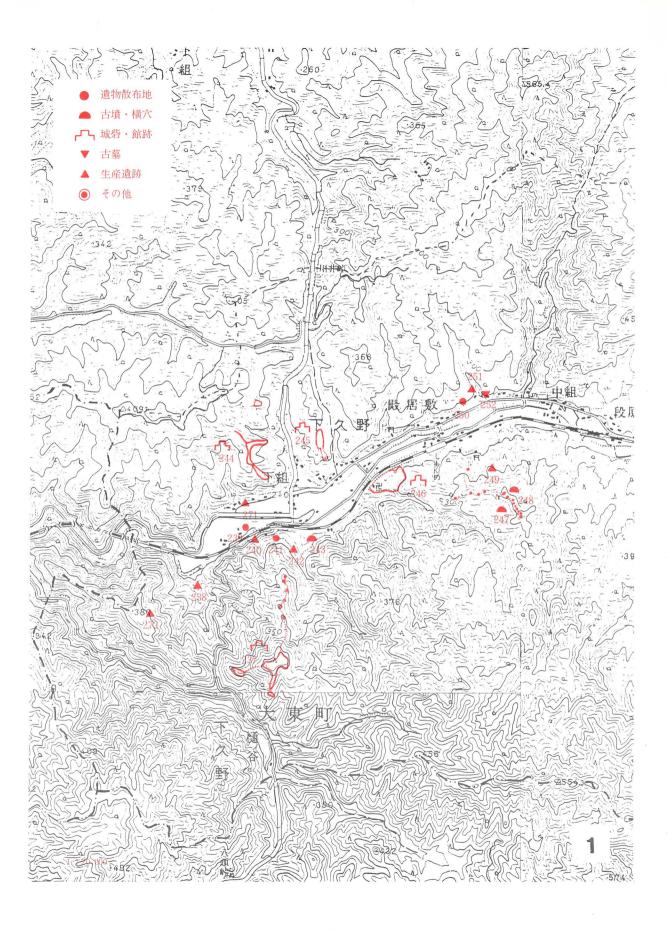
とびら写真	大林製鉄所(明治37年)	
	高殿図 (八幡宮代宮家文書)	
久野地区遺	跡分布図	2
久野地区遺	跡一覧表	5
Ⅰ.遺跡の	分布概要	7
1. 大字	:下久野	····· 7
2. 大字	:上久野	7
Ⅱ. 発掘調	査の概要	8
1. 大石	原古墓	8
2. 段た	たら跡	9
Ⅲ. 主な遺	跡	11
1.縄文	・弥生時代	11
2. 古墳	・奈良時代	11
3. 中世	の城砦など	13
4. 製鉄	関係	17
5. その	他	20
小字地名一	覧表	20
付編 段たた	ら跡の地磁気年代について	(時枝克安・伊藤晴明) 23
図版		25

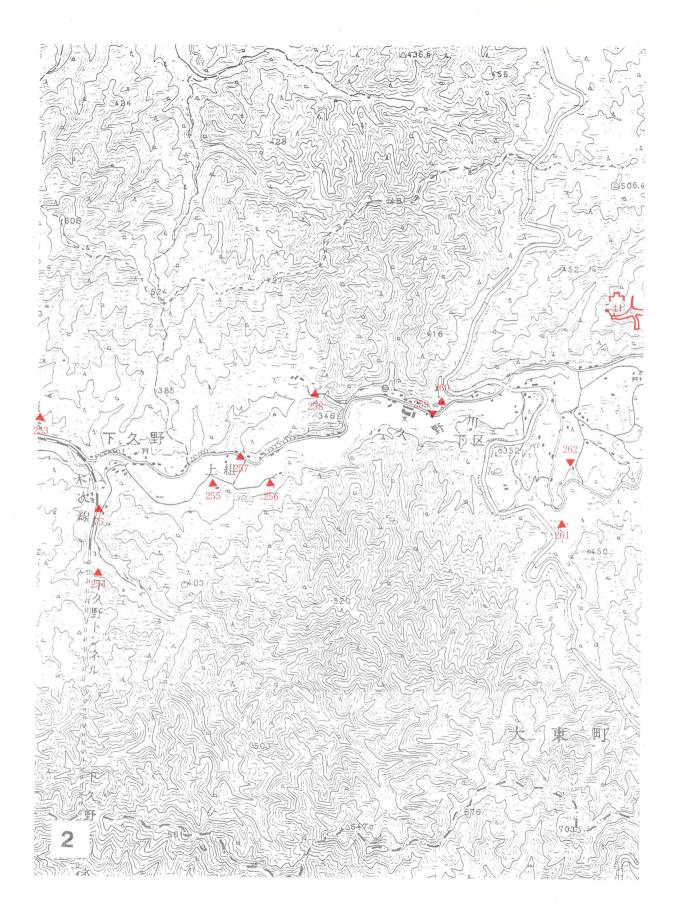
遺跡数一覧表

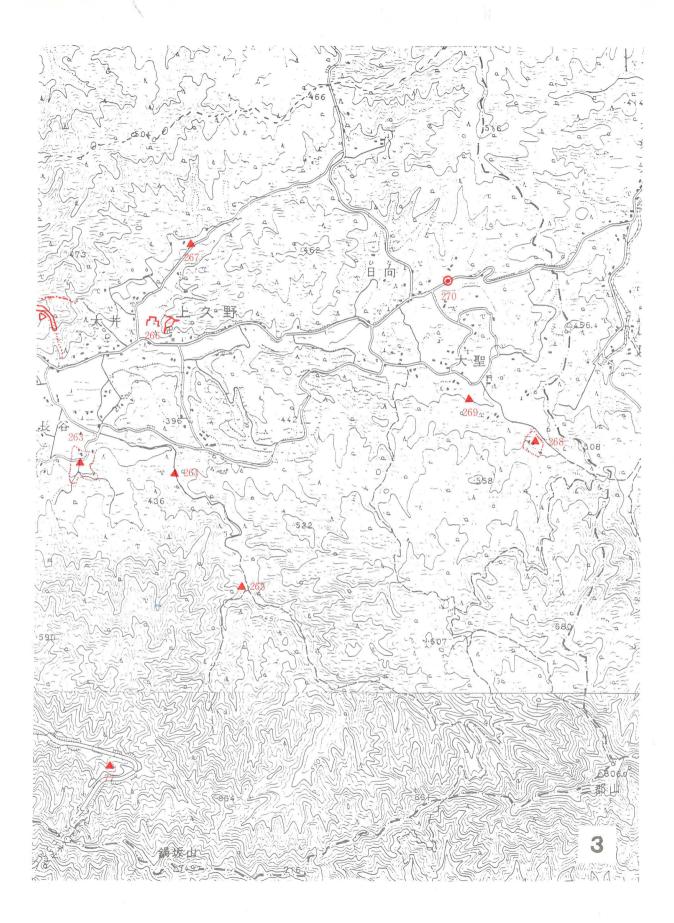
※()内は既知遺跡数

							1- 7707/H7C3#3 XX
大 字	散布地	古墳·横穴	城 砦	古 墓	生産遺跡	その他	計
上久野			2 (1)	2	9(1)	1	14(2)
下久野	3	3	4	1	14(1)		25(1)
計	3	3	6 (1)	3	23(2)	1	39(3)









遺 跡 一 覧 表

大字上久野

番号	種別	名 称	所在地(字)	現況	概
41	城 砦	生山城跡	生山・鎌倉谷・権	山林	494mの山頂から四方への尾根上に郭30、堀切8、竪堀3、
			現山		井戸跡あり 岩頭多し 久野氏の居城と伝う 南麓に関
					連地名多し
266	"	寺山砦跡	寺山	山林	生山城跡に対応する丘陵上、郭3、切岸など、物見であろうか
259	古 墓	大石原古墓	大石原	畑	試掘調査 墓石集積2か所五輪塔片もあり 基壇状配石4
				原 野	付近の畑地は墓地跡、近世の墓
262	"	乗越の五輪塔	乗越	墓地	現行墓地に残欠あり 付近の寺跡(消滅)から移したも
					の 付近採取と思われる縄文石器もあり
77	生産遺跡	大槙たたら跡	大槙	山林	山奥の谷あい平坦地 鉄滓多く地蔵尊あり 近世の高殿たたら
260	"	高橋たたら跡	高橋	畑・	谷川に面して鉄滓多く堆積 上方平坦面に焼結面一部残存
1		•		宅 地	炉床半壊か
261	"	成林たたら跡	成林	畑・	谷川に張り出す台地上: 炉床部は破損か 斜面に鉄滓多
				雑種地	し 近世たたら
263	"	長谷たたら跡	鑪床・長谷鑪床	水田・畑	広い台地上、鉄滓広く散布、炉床も複数かいずれも位置不明
			上鍛冶屋	道路・	圃場整備と道路で地形大きく改変 付近に鍛冶地名あり
		-		墓地	墓地群あり 文化年中盛行 経営石原氏?
264	"	長谷・奥原たたら跡	奥原	山林	道路で遺構中心部は消滅 崖面に焼土断面 5 m 鉄滓散布
265	"	長谷・鉄屎塚たたら	鉄屎塚	"	山奥谷川のほとり 小舟端の一部露呈 近世の高殿たたら
		ら跡			石原氏経営か
267	"	神ノ前たたら跡	神ノ前	畑	鉄滓散布 圃場・道路でほとんど消滅 炉壁材にスサ混入か
268	"	大林製鉄所跡	大林	畑・水田	M19~T7操業の近代たたら 保存良好 関連建物も・・
				宅 地	部現存 写真資料等もあり
269	"	廻ノ上製鉄跡	廻ノ上	畑・	山麓緩斜面 川寄り部分に鍛冶滓、山寄り部分にたたら滓
				山林	野たたらか
270	番所跡	上久野番所跡	大田旧番所	畑・雑	広瀬藩領との界に近い道路沿い 大部分消滅

大字下久野

239	遺物散布地	下梶屋遺跡	下梶屋	水 田	小河岸段丘 圃場工事で土器出土 付近に鍛冶跡もか
241	"	段遺跡	段	畑	台地上 畑中より土師器出土 近くに印塔片もあり
250	"	大台遺跡	大台	水 田	谷川沿いの水田あたりか 水害時に土器(土製支脚)採取
					現況は圃場整備後
243	古 墳	寺谷尻古墳	寺谷尻	畑	封土なく横穴式石室崩れて露呈 門柱石のある横穴 石室
					出土品不明
248	古 墳	八幡奥古墳群	殿ノ奥	山林	谷奥支稜線上に17基以上列をなす 南斜面の横穴(247)に
					伴うものか
247	横穴	八幡奥横穴群	殿ノ奥	"	谷奥の山腹 1穴開口5~6基落込みあり 他に多数並ぶか
					遺物不明 稜上の古墳群(248)はこれに伴うマウンドか
237	城 砦	高丸城跡		"	416mの山頂付近 郭10 堀切6 竪堀3他 仁多への備えか
244	"	中垣内上砦跡	中垣内、楮垣内	"	支尾根上に梯郭20 川井峠からの路に対するか
245	"	戸屋ケ崎砦跡	戸屋ケ崎	"	丘項付近3郭残存 中垣内上砦に対応する物見 大山権現祠る
246	居館跡	殿居敷館跡	殿居敷	畑	低丘陵台地 削平地3段で広大 大きい堀切りあり
					久野氏とも馬田氏とも伝う
252	古 墓	森の五輪塔	森	原 野	丘麓に1基あり 由来不明 丈71cm 近世初期か
75	生產遺跡	井谷たたら跡	井谷	水田·畑·他	江戸後期から明治初年までの高殿跡 石原氏経営
238	"	栃坂たたら跡	栃坂	原 野	遺構不明 細かい鉄滓散布 野だたらか
240	"	叶原製鉄跡	叶原・下梶屋前・他	山林・他	遺構破損か たたら・鍛冶など 複数の遺跡
242	"	段たたら跡	段	旧畑地	試掘調査 小舟構造あり やや小形の高殿か 近世
249	"	才ケ市炭窯跡	才ケ市	山林	丘陵上方 掘抜き式穴窯 推定長11m 煙穴3か所か
					前庭に炭灰層あり
251	"	叶谷たたら跡	叶谷	畑	狭い谷の入口付近鉄滓散布 野だたらか 耕土下焼土面あり
253	"	鈩廻たたら跡	鈩廻	畑・他	丘麓台地上 宅地付近斜面に鉄滓散布多し 近世たたらか
254	"	小井谷たたら跡	小井谷	田 ・	丘麓高所の削平地 鉄滓散布多し 付近に墓地群あり
				原 野	近世後期か
255	"	一ノ瀬たたら跡	一ノ瀬	畑	緩斜台地 鉄滓散布 炉床位置不詳 年代不明
256	"	樫木原鍛冶跡	樫木原	竹林・畑	鍛冶職場跡か 石垣の平坦面2か所あり 大鍛冶鉄滓散布
257	"	中鑪野だたら群	中鑪	畑	丘麓緩斜面 畑耕土下に焼土面複数あり 一帯に鉄滓散布
					炉壁材にスサ入りを認む 中世か
258	11	遠目野だたら跡	遠目	山林	道端崖面に鉄滓層あり 上方平坦面に焼土面を認む
271	"	叶垣たたら跡	叶垣	畑	細滓散布 スエ器片も採取
272	"	畑ケ平炭窯跡	畑ケ平	山林	掘抜き式穴窯

Ⅰ. 遺跡の分布概要

久野地区は能義郡・仁多郡と大原郡の界である三郡山を源とする久野川の最上流部で、南北両面を高い山々に挟まれており、大字上久野と下久野に分かれ、古代の久野地区は阿用郷に属した。『出雲国風土記』には仁多郡への通路として「辛谷村」の地名があり、大字下久野地内に比定されている。しかし、現在では下久野地内に「ヒノタニ」地名はみられない。ともあれ久野地区は古くから仁多方面及び能義郡奥部への路筋でもあり、これが鉄の道として活かされ、近世に降ると製鉄の盛行した地域である。このように町内でも趣を異にする地区である。

1. 大字下久野

中世後半には交通の要に備えた山城や砦(高丸・中垣内上など)が尾根上に築かれ、集 落中心部を見渡す高台(殿居敷)には居館が営まれた。

近世では大小規模のたたら製鉄の跡が全域にわたって点在し、一部には中世かと思われる所(中鑪)もある。これらと関連する炭窯では事例の稀な横穴様式の穴窯がある。

2. 大字上久野

この地区内は近世〜近代に盛行した鉄穴流しと近年行われた農地開発により地形が大きく改変されたところが多く、古い遺跡はほとんど見当らない。しかし、乗越地内で縄文時代の礫器1点が古く採取されていた。出土地点は明確ではないが、付近の鉄穴流しによって発見されたと思われるもので、低く張り出す支尾根上又は高い台地上には約4000年以前の古くから人の営みの跡をわずかに窺うことができる。こののち中世の城跡まで遺跡は明らかでない。

生山の山頂を中心とする城跡は、南東麓の居住区域と共に室町期の典型的な山城の様相 が判る事例である。これに伴う中世の古墓も散在すると思われるがほとんど見当らない。

この上久野地区は特に製鉄遺跡が顕著であり、近世から近代まで9例を数えたがさらに 山奥部においては今後発見される可能性が大きい。小字地名からみると鉄穴の区域も広い ことが判る。

このほか松江藩の界にあたり番所跡も知られている。

Ⅱ. 発掘調査の概要

1. 大石原古墓

立地と環境:上久野字大石原にあるこの古墓は、久野川の大きく迂曲する地点に北から張り出す狭い丘陵の突端にあり、古くから墓石等が集積して塚状としたところであった。また直下を県道安来木次線が通っており、丘陵先端部はこの道路の前方に残っている。ここには下方の旧道から石段が昇って現道脇の馬頭観音碑に達している。しかしそれから古墓までの間は切断されており旧状は知ることができない。

古墳の位置は直下の県道から約6 m 高く、隣接する畑 $(7 \times 10$ m)とほぼ同一削平面である。そしてここは将来、道路改良等の可能性があるところであり、この畑地部分について隣接墓地との関連や時代相などを知るため発掘調査(試掘)を行うこととした。

遺構の概要:畑地部分に設けた幅1mのトレンチ調査では、耕作土を除くと等高線に並行して、直径1.5~1.0mのほぼ正円形の落ち込み6か所が認められた。この落ち込み土は地山土の掘り返し土を再び埋め戻したもので、地山土よりやや暗色で若干の木炭片を含む。そして各々ほぼ中央付近に小礫が認められるものが多い。南寄りの傾斜下方では盛土のためその堀り方は不鮮明である。

このような落ち込みの様相は、正円形桶状の棺を埋葬した近世土葬の場合と同様であると判断されたので、堀り方底に至る発掘は行わなかった。

また、上面にあった礫は隣接地にある塚状の集石と同質の破片であることから、この墓地にあった礎石や墓石を隣接地に移してまとめ、その後を畑地に拓いたものと思われる。

なお、集石部の付近には落葉の下に方形に配置した礎石が4か所に認められることから、調査地点と一連の墓地であり、本来幅約10m、長さ20mの墓域であることが判った。

集められた石材は大部分が付近に見られる山石であるが、その中に凝灰岩質(キマチ石)の五輪塔片(1基以上分か)がある。 五輪塔は笠(火輪)を欠くが、推定全高70cmの中形であり宝珠(空風輪)頂部の尖りが明確で、江戸時代前期の製作と思われる。

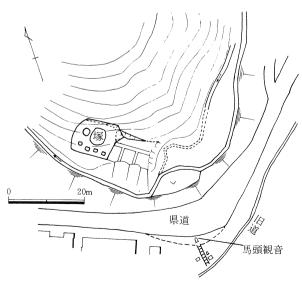
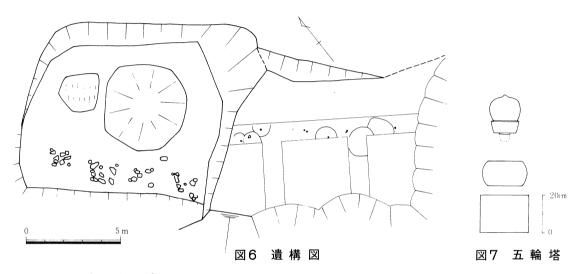


図5 大石原古墓地形図

まとめ:調査した畑地部分は、隣接する集石塚や方形に配置した礎石の残る旧墓地と一連の登域であった。

川端を通る旧道からの石段脇に石燈籠や手洗石と石段造営の碑があり、それぞれ明和8 (1771) 寛政 4 (1792) に鉄師であった石原氏や付近の人々の寄進名が見られる。この石段を登りつめると調査した墓地のあたりに達するものと思われるが、県道等で途中が破損しておりこれ以上の関係は明らかにすることができなかった。因みに大石原の小字地名はこの石原氏によるものと伝えられている。



2. 段たたら跡

立地と環境:下久野字段にあり、北に開く狭い谷間の入口部西側の段状地形に立地する。 19×13mほどの旧水田で、谷川はこの東縁を大きく曲って北に流れている。

分布図等に示すように、この久野地区では小谷地形の入口部付近にはそれぞれ鉄滓が 散布し、中小のたたら跡が散在する。この段たたら跡もその一つである。

たまたまここは休耕作中であり、しかも耕土直下に焼土面が広く残存しているとのことから、たたらの様式や規模等を知る目的で部分的な試掘調査を行った。

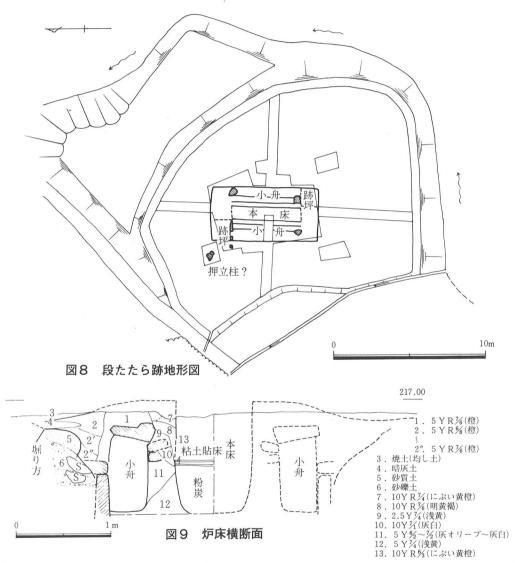
遺構の概要:試掘面積は炉心部を中心に平坦面の17%にあたる41㎡について行った。

検出した遺構面は、操業当時の面が炉心部付近でよく残っており、中心である本床部分が耕地化に伴ってわずか20cm程度削り去られていると思われた。

地下の構造については、中心点から西へ約2m、深さ1.1m(本床釣り部)まで小トレンチを掘って観察した。さらにその下にも構造があるが、トレンチが狭小なことと、遺構保存の意味でこれ以上の発掘は行わなかった。

主な構造についてみると次のようである。

堀り方は上端で幅3.6m、長さ7.2m、深さは下底部未発掘につき不明。中心となる本床は上端幅85cm、長さ約4m、深さ1.2m(推定)で、下方から炭灰を詰めて中間に薄い粘土ベースを張り、さらにその上にも炭灰を充填している。本床壁面は小舟内壁と共通で、元釜土のみの積み上げで、剝落部を補修した所も見受けられる。



小舟部は幅40cm、高さ80cmと狭く高いもので、長さ4.5mを測る。外壁下端には石垣が並ぶが上端まで達せず、内外壁とも上端は中小の石を並べてそれを支えに板状の天井石を渡しかけている。末端部分は未調査であるが、焚口部と思われる大きく厚い天井石が用いてあり、他端は小石数個を嵌込んで煙口を閉塞しているようだ。跡坪部分は南北とも1.2~1.5m程度で狭い。

なお、小舟・本床構造より下方の底部構造はどうなっているか不明である。

まとめ:段たたら跡は小舟構造を有する近世高殿様式ではあるが、その掘り方や本床釣り 各部の法量が小さく、初期的な手法である。高殿建屋については未調査であるが、大型 の敷地ではない。これらから高殿様式の初期段階の遺構と推察される。

理学的年代測定は島根大学へ依頼して下記の結果を得た。

西暦1720+15年

即ち、宝永~享保年中にあたり、高殿たたらの前期段階のころである。

Ⅲ. 主な遺跡

1. 縄文・弥生時代

久野地内においてはこの時代の遺跡はついに発見できなかった。縄文時代遺跡の立地に ふさわしい環境でありながら全く見当らないのは、おそらく近世に盛行した砂鉄採取の鉄 穴流しにより消滅したものかとも思われる。

このような中にあって上久野字乗越の墓地内にたまたま1点の石器が混入して祠られて いた。扁平円形の凹石で凹部のほかに磨面と敲打部分があり、磨石や叩石としても用いら れている。大まかに縄文時代後期頃のものであろう。この付近は大規模な鉄穴流しの行わ れたところであり、おそらくその際に採取されたものであろう。最も古い貴重な1点の資 料である。

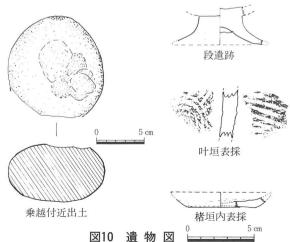
弥生時代については何らの手がかりもない。

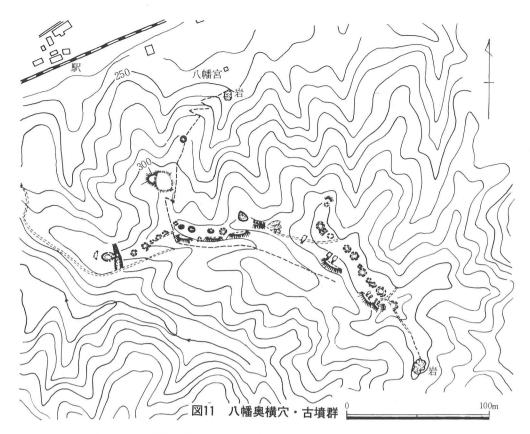
2. 古墳・奈良時代

かつて土製支脚が2点採取されたことがある。1点は昭和39年水害時に下久野字大台で、

もう1点は圃場整備工事中に下久野字下梶屋 (落合茂重氏宅前付近)で採取された。出土品 は見ていない。また下久野字段の丘陵上の畑 からは時折土器が出土し、そのうち1点は土 師器の低脚坏であった。これらはいずれも古 墳時代中~後期頃と思われる。また須恵器の 破片が字下梶屋や字叶垣の畑地から採取され ている。奈良時代頃の居住区域を思わせる。

下久野八幡宮の裏山を入った丘陵上には直 径8~10m程度のマウンドが17基以上列をな





している。またこの南斜面わずかに下った丘腹には、狭長なテラス状加工段があってそこには横穴墓が営まれていた。開口している横穴は1穴のみであるが、隣接して陥没部が認められることから2群5穴は推定された。このほかにもテラス状地形や陥没地点があり、さらにその数は多いものと思われる。

開口している1 穴についてみると、玄室は 1.5×3 m 長方形、高さ1.43 m 断面三角形の雲南地方で普通に見られる形状であるが、大型であり羨道は片袖式である。

かって土器が出土したと伝えられるが現存しない。

なお稜線上のマウンドは、これらの横穴に対応するものかとも思われるが明確ではない。 従って遺跡としてはマウンドは古墳として、横穴と区別した。さらに付記すると、八幡宮 後背の注連を巡らせた巨岩は古くはこの宮の御神体であったと思われるが、これら一連の 古墳群への入口の標徴と考えることも可能である。

下久野字寺谷尻古墳は丘陵先端にあたる突出台地上にあり、畑地の中央に破損した石室が露呈している。明治初年頃鉄剣が出土したとの伝えもある。石室は約3×5m(外寸法)で、門柱石2本を有する横穴式石室である。封土はすべて失われているため墳丘については不明である。

以上の横穴や古墳は古墳時代後期に営まれたもので、下久野中心部には集落があったことが窺われる。

3. 中世の城砦など

久野地内で古くより知られていた城跡は上久野の生山 (鎌倉) 城跡と下久野の殿居敷とであったが、このほか下久野の通称高丸の頂部にも城郭があり、対峙する位置の中垣内上にも規模の大きい砦が所在した。またこれらの近くにはそれぞれ物見郭かと思われる砦が設けられている。

1)生山城跡

巨大な岩頭を頂上とする標高494mの生山山頂から四方への尾根上に縄張りした城跡で、主郭部の最頂郭と第2郭はいずれも岩壁の上を郭とし、第3郭は南~東尾根への基点となる大きな郭で前端の切岸は4~5mを測る。

前面である南郭群は大堀切りを経て削り出し土塁のある郭から小郭3段を下る。最先端は巨大な岩頭で、下方久野川に至るまで絶壁に近く、直下約30mの岩庇下に生山権現社がある。また先端近く東側斜面には2条の竪堀りを落している。これが正面の構えである。

第3郭から帯曲輪を経て西尾根の郭群は比較的広い4段の郭から成る。さらに尾根を下って小さな堀切りを設けて南西の鎌倉谷へ竪堀り1条を落し、久野川下流方向への備えとしている。

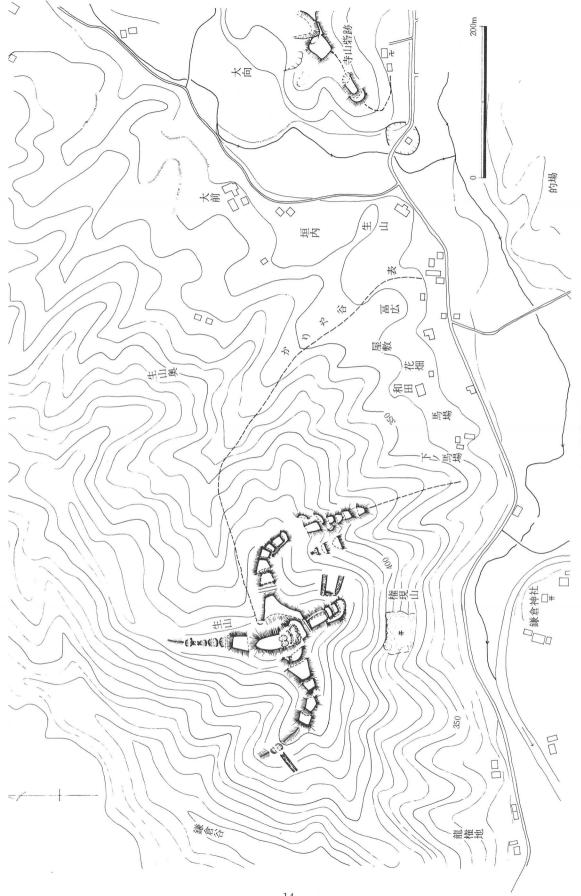
東へ長く延びる尾根には広大な基部郭(第4郭)から落差9mの切岸と堀切りを経て郭が6段続き、さらに南へ曲りながら6段の小郭が、新馬場、方向へ下る。またこの尾根と正面の南郭群との間の谷頭には井戸跡があり、搦手郭から通路が認められる。麓の居宅区域(表・屋敷・花畑・垣内等)からの登り路は、かりや谷、の奥から搦手郭の北側を回って東基部の第4郭へ登る。

後方尾根続きには頂郭からなだらかに下ったところに広い方形の郭 (第5郭) をおき、 それから北への瘠尾根は5段連続の堀切りで遮断している。

また麓の `表、に続く `字生山、(かつて学校のあった所) も麓の砦であったと思われるが、掘削されて地形が大きく変わっており、今となっては判然としない。

付属する砦として大谷川を挟んで東の丘陵上(総覚寺の裏山)には寺山砦があり、物見郭など数段の郭が造られている。しかしこれも裏手にあたる北側は鉄穴流しで大きく抉り去られて旧状は不明である。

このように生山城郭は絶壁の山頂に設営した城で、専ら戦うことを目的とした鎌倉末~ 室町前期に始まるもので、戦国期まで手入れされたものと思われる。

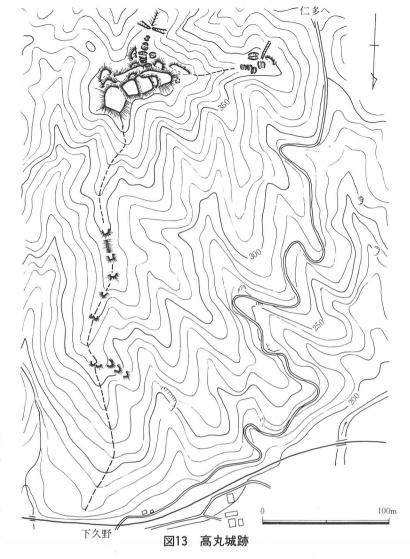


2) 高丸城跡

仁多郡から樋の谷を経て 下久野に下る県道東側の通 称高丸山の山頂付近に設け た城郭で、頂部の主郭部と 西へ短く張り出す支尾根、 及び北へ延びて下久野字段 に至る長い尾根上に占地す る。

登路は専ら字段からの尾根筋で、狭小な小曲輪7段がところどころにあり、木戸跡と思われる部位も2か所ある。

登り詰めた頂部は広い平 坦部で、中心となる広い郭 3面と西に下る2段の郭が 主となり、南に面して腰曲 輪等が5段数えられる。南 へ下る瘠尾根は五重の堀切



りとその先端から東西に落とす竪堀りによって遮断している。西へは緩やかな稜線を下った先端部に堀切りや横堀りを不揃いに配置した阻塞で、先端から南下方の峠道に対して竪 堀りを1条落としている。

これらの構成は南方の仁多郡方面に対する防備を主とするもので、特に下方を通過する *樋の谷越し、の位置に対処する構えであろう。戦国後半期の支城的なものであろうか。

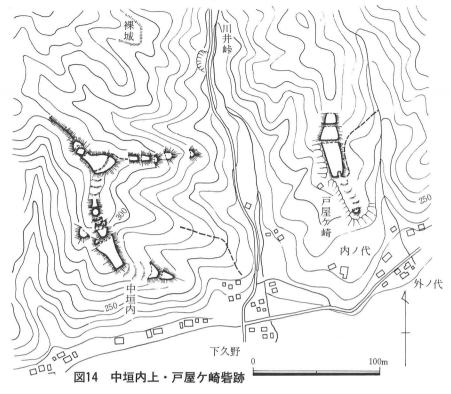
3) 中垣内上砦跡

下久野字中垣内の上に張り出す支丘陵上に設けた砦跡で南と東への2つの尾根上に縄張りを行っている。堀切りや土塁等はみられず、尾根上のわずかに高まる頂部から東への尾根は岩頭の間を下って小僧谷の通路を見下ろす尾根上に5段の削平段を配置し、南尾根は突端頂部の高まりから下りながら9段の大小削平段が断続し、下久野集落を見下ろしている。登路は明確でないが字楮垣内からと思われる。

この構成は頂部を物見とした砦である。またこれより北約100mの別の支尾根に、裸城、の地名で旧畑地があり、これも峠道に面した位置であり相互に関連するものかもしれない。

4) 戸屋ケ崎砦跡

小僧谷を挾んで中 垣内砦に対応する丘 陵上にあり、3~4 面の削平地が残って



いる。西及び南端は鉄穴流しで大きく削り去られて旧状は不明である。南端には、内ノ代、 、外ノ代、の地名がみられる。また最頂部には大山権現が祠られている。

この砦は川井峠越しの道を挟んで中垣内上砦と呼応しながら監視するためのものと思われる。

5) 殿居敷館跡

栄福寺後背の広い台地上で現況は畑地である。寺はのちに移って来たもので、この寺域も含む構成であったろう。約70×150mのほとんど平坦な台地上を幅9m、深さは現状で2mもある大空堀りで二分し、西の先端方向へは段状に下っていたが現在は此所が寺域となっている。また北西側面は鉄道によって削られ現在は帯曲輪が2段ほど残っている。伝承等によると永正年中馬田越中守或は久野肥後守直経の居所という。室町後~末期の居館跡である。

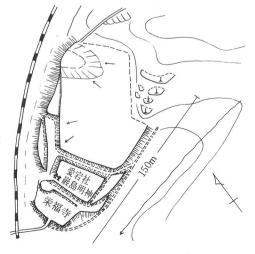


図15 殿居敷館跡

6) 古墓について

城砦の麓地帯には古墓が散在することが多いが、五輪塔・宝篋印塔に着目してみると中世と思われるものは全く見当らなかった。近世初~前期と思われる五輪塔片もわずかで、 上久野では大石原・乗越に、下久野では森・国魂神社に、宝篋印塔は下久野段にそれぞれわずかに認められた。

4. 製 鉄 関 係

久野地区は近世たたら製鉄の盛行した地域であり、大正年間まで操業された所でもある。 鉄滓の散布もほぼ全域にわたるが、製錬・鍛冶があり、また炭窯もある。

製鉄や鉄穴流し・鉄山等に関する記録や伝承も数多く残っている。久野地区のたたら経営者については、江戸時代以降ほぼ辿ることができる。(「久野のあし音」より)

元禄・宝永頃	(1688~1710)	長沢平右ヱ門	長谷で製鉄
宝暦・明和頃	(1751~1771)	石原与右ヱ門	上久野高橋で製鉄
寛政年間	(1789~1800)	石原 市郎太	井谷で製鉄
文政11年	(1828)	石原市左ヱ門	御仕法鈩となる
明治21年	(1888)	福間喜代三郎	石原衛造より井谷鈩買取る
明治30年代	$(1897 \sim 1907)$	"	大林へ鈩を移す
大正9年	(1920)	"	大林鈩廃業する

1) 大林製鉄所跡(扉写真)

明治19年から大正7年まで操業した終末期のたたら跡で、現福間氏宅はその元小屋であり、明治37年撮影の写真のほか関係書類等も残されている。高殿・大銅場・長屋等の跡も 歴然としていて史料価値の高い遺構である。

2) 近世高殿たたら跡

井谷たたら跡は石原氏が近世末~明治まで操業したところで、文書資料等も散見される。 小井谷たたら跡はその谷を遡った所にあってより以前の時期であろう。長谷では寛政期頃 を中心に広い範囲に複数のたたらと鍛冶場があったようだが、土地改良等で地点の特定は 難しい。谷奥に鉄屎塚たたら跡があり造林地内に炉床構造の小舟が開口していて、高殿位 置も良好に残っている。やや小型のようだ。

鈩廻たたら跡は宅地付近の斜面に多量の鉄滓が見られるが、高殿の位置は特定できなかった。大仁農道の仁多町界に近い大槙たたら跡は、谷合いの広い敷地で金屋子神木もあり

奉納した初銑も現存する。同じ谷の入口近く成林たたら跡は、谷川に臨む台地上の炉床あたりは開畑で破損しているが斜面の鉄滓は夥しい。下久野叶原のたたら跡は砂防ダムにより破損している。段たたら跡は試掘を行い既に別項に記した。

このように久野地内は各地点において近世の大型たたら跡がみられる。共通する特徴として、前方谷川又は深い谷間に多量の排滓を行っていること、炉床又はその推定部は概ね3 a以上の平坦面で高乾であり、後背に深山を控える。また山越えで仁多郡との関連が深いところが多い。

3) 野だたら跡等

上久野字中鑪の畑地には焼土面(炉心部)の残っているか所が複数あり、排滓中の炉壁 片には藁苆の混入が著しく、中世的な手法で最も古いものであろう。

神ノ前たたら跡もこれに近い様相であるが、大部分が道路によって失われている。このほか山本宅後方の高橋たたら跡・廻ノ上製鉄跡の山寄り地点、遠目谷への峠にある遠目野たたら跡・山本宅裏の叶谷たたら跡・栃坂入口部の栃坂たたら跡・叶垣たたら跡なども、ほぼ同様に小型で簡易な構造の野だたら様式であろう。

なお、長谷奥原たたら跡はやや規模が大きいようであるが、中心部分が道路で失われて おり高殿たたらとも野だたらとも判別しかねる。一ノ瀬たたら跡も鉄滓は多いが炉心地点 は不明である。

これらの野だたら様式は地下に巨大な構造を造らないもので、一般的に地下に床釣り構造の重厚な高殿たたらに先行するタイプでありより古いとされるが、時代の下る小規模経営もあって、時代の特定には慎重を期する必要がある。

4) 鍛 冶 跡

ここに挙げる鍛冶跡はたたらでできた銑鉄を可鍛鉄(鋼)に精練する一次加工の鍛冶(大 鍛冶)のものであって、小鍛冶(野鍛冶)ではない。従ってたたらに付設される場合も多 い。

上久野廻ノ上製鉄跡は川端寄りの鍛冶跡(畑)で約60mの山寄り部にある野だたら跡と対になるものであろう。近世大型たたらに付属するものとしては、長谷たたら跡付近に散在する複数の鍛冶地名が代表的であるが、耕地整備等により明確な地点は特定し難い。樫木原鍛冶跡は竹林中に石垣を積んだ2段の職場跡があり、その前方に鍛冶滓が散乱している。保存状況は良いようだ。

下久野では叶原製鉄跡の一群で、たたら跡より下方の落合宅前の水田(下梶屋)に鍛冶

跡があったと推定されるが、圃場整備によって遺構は破損しているようだ。付近には関係 地名が他にもあり、複数か所と思われる。

5)炭窯跡

製鉄地帯であることから地区内山中には多くの炭窯がある。これらのうち山腹に横穴を掘り抜いて窯体とした穴窯遺構 2 点があった。八幡宮脇の丘陵上の才ケ市炭窯跡と畑ケ平である。前者は掘り抜いて地表に開口する煙口が 3 か所あり、前庭面には粉炭層が埋没している。窯体は開口していないが推定長は11m 位であり、 3 本の煙口であることから大炭(たたら用木炭)を生産したものと思われる極く希少な事例。伝承なく時代は不明。

5. その他

上久野は能義郡広瀬町奥田原と境を接しており、江戸時代には広瀬藩との藩境であった。 このため松江藩はここに番所を設置していた。上久野字大田旧番所がその地点である。現 況は県道とそれを挟んで上下とも水田であり旧地形はほとんど改変されている。番所役人 であった長野氏の温情話などが伝えられている。

小 字 地 名 一 覧 表

大字上久野

地図番片	小 字 地 名	地図 番号	小 字 地 名
1	槙ケ原、槙ケ原奥		木挽道ノ谷、大谷原南平
2	袋尻、新宅、川原、栗木廻	14	木挽南平、大槙、木挽谷日向平奥、木挽谷日向平下モ、
3	牛ケ谷、牛ケ谷東平、牛ケ谷西平		鈩谷、木挽谷尻東平、鈩谷尻
4	大石原、下モ大石原、戸屋、六郎原、高橋	15	乗越、寺中、堀ノ内、後鉄穴内、鉄穴内、平田、平田上、
5	化生谷尻西平、化生谷、化生谷尻東平、大東林		反田、後反田、後反田上、反田下タ、反田尻、麻畑、
6	稗畑、掛水、掛水下ノ谷、掛水奥、堂ノ上、稗畑尻西平、		寺中南平、寺中奥
	奥稗畑西平、稗畑奥、稗畑東平、和名坪、稗畑尻、奥稗畑、	16	川端、古輪、中屋敷、清水井手下、清水、屋敷、屋敷家ノ上
	稗畑尻東平	17	坪ノ内、引地、越峠、一久保、越峠東平、前田、梅ノ奥尻
7	山木、高橋谷尻東平、高橋、高橋西平	18	荒神谷、荒神谷東平、荒神跡、荒神堀、梅ノ奥、
8	樋ノ口、千屋ケ廻、鎌倉尻、関ノ上、六郎原	15	梅ノ奥家ノ後、鉄穴平、平ノ垣内、梅ノ奥尻、梅ノ奥道下タ
9	松ノ木原、外原、向田、袋尻、高垣、小廻、川原林、小廻東平	19	中村、中屋、猫淵、臺、十王堂、細田、堂ノ後、下モ小谷、
10	鉄穴内、反田、経塚、高垣原		徳廻、平床、下長谷上ミ小谷、下モ小谷尻
11	梨子木田、外原、竹ノ下、水落シ、原ケ市、経塚	20	龍権地、鎌倉尻、鎌倉、引木、狸イコ、鎌倉尻西平、鎌倉谷
12	平、反、古輪、込、山田	21	廻ノ奥、廻、上廻、下モ廻、廻ノ空、風呂屋、権現山、生山
13	大谷原西平、大谷原井手上、大谷原、成林、道ノ谷西平		廻ノ奥西平、廻東平、大廻、大廻前田、大廻下モ、大廻ノ上

- 大廻後、大廻前、孫山、大廻ノ空
- 22 新次郎作、小吹ケ、宮原、宮本、小神田、宮ノ脇、宮ノ脇道下、鎌倉、代宮屋、宮ノ前、宮ノ後
- 23 上ミ小谷、上ミ小谷尻、上ミ小谷尻東平、宮ノ上、宮ノ向、上ミ小谷東平
- 24 小原、松ノ前、恩崎井手上、峠、原、新屋、釜屋、 釜屋小丸山、風呂屋
- 25 代宮家田、西ケ平、下モ長谷、姫ケ坪
- 26 切明尻、切明、切明奥西平、切明奥、切明奥東平、菅ノ谷、田辺リ、田ノ上、仁助山、切明東平
- 27 大神田、森山、祖父田、川端、石田、薮ノ内、長谷、三崎原

- 30 井手下、奥原西平井手下、奥原井手上、奥原川端、奥原、 川端、奥原井手下、奥山
- 31 花建山、花建道下夕、奥山、奥原、田中、田中井手下、 寄合畑、糀屋峠、糀屋
- 33 恩崎、柳ケ坪、柳ケ坪上、山根、山根家ノ後、的場、後的場
- 34 前田、土井後、蔵本、恩崎、松本、山崎家ノ後、山崎、小原 峠、後小原、サワリ、中島
- 35 原田、馬場、下モ馬場、和田、大引、和田新馬場、和田家ノ上、和田家ノ前、家ノ上
- 36 前田、屋敷、表、次郎兵衛前、冨廣、宮田、川バタ
- 37 対屋谷奥、苅屋谷東平、苅屋谷西平、苅屋谷尻西平、苅屋谷 小丸山、屋敷、家ノ上、上土居、堂ノ上、堂ノ脇、花畑、生山 堂ノ奥、生山井手下、苅屋谷東平林下タ、苅屋谷奥東平
- 38 生山奥、生山、垣ノ内、袋尻、池ノ内、道下タ
- 39 袋尻三合前奥、向田、鍛冶屋、大向、三合前、三合前奥東平 三合前北平、上リ廻、三合前家ノ下モ、三合前家ノ空、袋尻 大向小丸山東平、三合前奥
- 40 上小廻、小廻、穴内、大前、小廻小丸山
- 41 ドウドウ、上小廻、廻、カ、場、惣次郎谷、鉄穴内、岩カイ
- 42 梅ノ木田、梅ノ木田空、梅ノ木田頭、井手ノ平
- 43 「鈩谷、折原、山神谷、鈩谷奥折原、鈩谷奥山神谷
- 44 神ノ前、家ノ前、鈩谷、神ノ前川堀
- 45 澤田尻、澤田、幸木イゴ、ケツタ、桜ノ木、桜ノ木向、 釜ノ谷、四計場谷西平、四計場谷東平、舞込、四畝場谷尻 宝祖坂尻、大谷、宝祖坂尻西平、ホウソ坂尻東平、ホウソ坂 上ケツタ、大谷宝祖坂尻、下ケツタ、大谷南平、四畝場谷

- 46 羅保谷、羅保谷奥、ラホ谷西平、ラホ谷東平、松田家ノ下モ 松田、松田奥、クヨシカ谷、切吉ケ谷奥、クヨシカ谷尻、 小堀、ラホ谷尻
- 47 大谷北平、大谷、桜ノ木奥、桜ノ木上ミノ田平、大谷飯ケ廻 桜ノ木、桜ケ谷、桜ケ谷尻、畑田イゴ下モ田平、 飯ケ廻尻田平、飯ケ廻尻、小堀田平、大谷平
- 48 オノ峠、オノ峠田平、大谷、大谷田平、吉ケ谷、オノ峠尻、大谷尻
- 49 大谷奥、大谷、セドノ谷、才ノ峠尻
- 50 大谷、大谷南平、下モ大谷、中大谷、奥大谷、下ノ廻、 大谷奥、上ミノ廻、家ノ奥
- 51 向廻、向廻東平、橋詰南平、橋詰、的場、清水、寺中、城久 常久、井ノ奥清水、橋詰南平下タ
- 52 上堀田、上堀田上、上堀田関上、井垣廻、清堂寺、川端、寺山、 寺上、寺坂、寺坂小丸山、高田小丸山西平、樋ノ口、寺下モ
- 53 井ノ奥、井ノ奥清水、新屋敷上、新屋敷、井ノ奥西平、井ノ奥田ノ下
- 54 洗樋谷西平、洗樋谷東平、洗樋谷尻、井ノ奥、足水谷西平、 陰地鉄穴、井ノ奥北平
- 55 井ノ奥、下井ノ奥、澤田、沢田南平、沢田尻、常久、 惣次郎谷、常久家ノ上、前田、惣次郎谷東平
- 56 アミタ堀、模田、新屋、瀧ケ原、新屋家ノ上、惣次郎谷、 大成、大成前、瀧ケ原道下、空ケ市、上堀田
- 57 下瀧、下瀧奥、鉄穴堀、シヘリ坂、瀧ケ原
- 58 瀧ノ谷、釜ノ谷、釜ノ谷尻、庄次ケ谷、瀧ノ谷北平
- 59 平、平向、清水小谷東平、和田、八人鉄穴、清水、 八人鉄穴上、清水尻
- 60 高畦、川原、高木空、高木
- 61 田中屋、西、西大田、西大成
- 62 大田、前大田、上隠居、前隠居、井手下タ
- 63 的場、的場中山、的場中山南、的場荒神跡、的場奧東北、 竹添、小屋谷、小屋谷尻、小屋/谷的場奥共、小屋/谷西平 竹/内、廻、廻/上及的場奥、水無シ
- 64 春木、下前、春石ノ内桃木、春石、大林
- 65 春石ノ内境後、半ケ峠
- 66 コハ松
- 67 タラタラ、土地木、春木田、廻、春木
- 68 小吹ケ、土地木、畑堀、空ケ田、土地木頭、姑田、 姑田北平、座頭ケ市、瀬野、瀬登
- 69 日焼、日焼空、日焼原、油免、中屋、下中屋、竹添、家ノ前 柳屋、柳田、前田尻、竹ノ内、田井中、小田、カジヤ、 柿木田、土地木、家ノ前鍛冶屋場所、大田
- 70 八舛堀、鍛冶屋、新兵衛ケ市、八人畑、清水尻、神田堀、殿田、羽毛ノ前

- 71 落合、和ケ市、松ノ前、上ケ市、川原、山崎、堂ノ峠、東ケ廻東平、東ケ廻西平、鉄穴平、ホウシカ峠、堤ケ内、新屋、上ケ市、大田旧番所、小カジヤ
- 72 砂子田、古輪、新屋敷、奥砂子田、古場、新屋
- 73 | 折戸ケ廻、濱子、濱子頭、梨子成、日焼、日焼空、座頭ケ市
- 74 向堀、瀬登、瀬登尻南平、瀬登中山、コハ松瀬登
- 75 月田ケ廻、月田ケ廻奥、林場、連場、濱子、奥濱子、 濱子北平、濱子頭、濱子小谷南平
- 76 オノ峠、渋戸ケ廻、三崎谷、三崎谷東平、月田ケ廻
- 77 池谷、池谷東平、池谷西平、池谷小丸山、池谷尻東平、東ケ廻

- 78 平田、槙ケ前、村下ケ廻、大田、村下ケ廻東平
- 79 長澤、ケツタ、寄合、寄合西平、寄合荒神跡
- 80 賀堀、賀堀北平、賀堀南平、宝祖谷、宝祖坂尻、松山、 竹ノ谷、竹ノ谷東平、竹ノ谷南平、中ノ廻、中ノ廻西平、 下モ廻西平、下モ廻
- 81 焼堀、宝祖谷、向田、前田、宝祖坂、小豆谷、桐木谷、 釜ノ谷、小豆谷尻、桐木谷尻、奥宝祖谷、鈩原谷
- 82 平、平小丸山、平山根、平ノ上ミ、平上谷、平下谷、 境ケ谷尻、前田、境ケ谷東平、境ケ谷西平

大字下久野

- 1 大猿谷、猿谷、小猿谷、場ケ原、猿谷尻
- 2 大平、紙屋大平、紙屋サコ、紙屋奥、鍋ケ谷、紙屋川原、 紙屋、紙屋ウ子、中ウ子
- 3 三助田、小堀、叶垣均、叶垣、家ノ尻、五反田、縄手添、 餅田、塔ノ奥、中垣内、蔵寶田、薬師堀、原田、カシ田、 楮垣内、梶田
- 4 原田、楮垣内前、大歳、下大歳、楮垣内均、楮垣内、上垣内 楮垣内サコ、森田
- 5 小僧谷、百尻、浅床、裸城、裸城尻、ツエタケ、畳岩、 一里松、西阿用谷、小僧谷西平
- 6 小僧谷奥西平、片屋敷、川井峠、一里松、小僧谷奥東平、 荒田、片屋敷尻、荒田尻、オノ峠
- 7 井手下タ、鴨田、小堀り、下梅ノ木田、梅ノ木田、叶廻、 作畑、外ノ代、内ノ代、客田、カ、ラ、オカシ尻、戸屋ケ崎
- 8 小僧谷鉄穴内、小僧谷、鉄穴内尻、小僧谷東平、鉄穴内、叶廻
- 9 高畔、オカシ、下土井、蔵ノ前、上土井
- 10 上土井、蔵ノ前、明見
- 11 明見谷、明見谷東平、明見谷浅井鳥原
- 12 宮ノ崎、下蔵寶、蔵寶ウ子、道下タ、蔵寶
- 13 大臺、大臺ウ子、道上
- 14 叶谷、叶谷大畑
- 15 森、森下モ、森下道上、中原道下、中原道上下モ、梨ノ木谷 中原、家ノ後、中原上ミ、糸谷尻
- 16 糸谷尻道下、糸谷尻、小司原道上、糸谷、小糸谷尻、 古金イコ、小糸谷井垣将、小糸谷奥、大糸谷
- 18 小司原道下、下司原、瀧ケ埒、クルミサコ
- 19 クルミサコ、仲田尻ケ坪、仲田尻ノ坪、仲田、段原口ノ坪
- 20 仲田尻ノ坪、仲田、段原口ノ坪、段原、クルミサコ、段原ウ子
- 21 段原、後平、下段原
- 22 明賀谷尻、明賀谷、増屋、鈩塔
- 23 小原、戸井ケ谷

- 24 諏訪原
- 25 諏訪原、上ミ井手谷、井手谷尻
- 26 トウメ、新屋
- 27 中鑪、中鑪木添、一本松、出店、出店前、吉ケ原
- 28 | 栗ノ木埒、吉ケ原、大久保田、吉ケ原川堀
- 29 吉ケ原向、カシ木原、カシ木原道下タ、カシ木原井手上へ、カシ木原井手下タ、カシ木原道上、カシ木原道上サコ
- 30 一ノセ奥、一ノセ、大ユ原、川堀、一ノセ川端、一ノセ道下タ
- 31 井谷、井谷尻、井谷尻道上へ、井谷鈩ノ上ミ、井谷ういこけ 井谷尻道下タ、井谷鈩ノ向、小井谷、新田原、新田原道下タ 井谷卑
- 32 折渡リ、下モ井手ノ谷、向原井手口、向原、下モ井手谷尻、向原池ノ谷、向原悪谷、井手谷澤田、井手谷尻
- 33 模原井手口、模原井手下タ、木成向、鳥井田、仲田、四百尻 三久保田、三久保田尻ケ坪、大久保田、模原宝田、模原井手上 ソリ田、才ケ市、寺田、八幡、宮ノ廻、ヨシ田、蔵宝田川端 蔵宝田、模原、模原うね、模原前田、才ケ市さこ、模原川端
- 34 油月、油月奥、八幡田、殿居敷、柿木田、寺ノ前、大黒大フケ、 寺ノ向、大クロ、勘右ヱ門田、かりや奥、かりや川端、深坪、 寺ノ前道下タ、垣ノ内、殿ノ奥、七畝場、勘右ヱ門田奥、 澤田、かがら、寺ノ奥、与三右ヱ門田、大クロ八幡田
- 35 早稲田、六畝場、仲ノ奥、蛇ノウ子、仲家ノ上ミ、田仲、仲、 仲家ノ谷、仲家ノ下モ、西、仲田、狼田、西ノ前、西ケ平、 段、井手頭、仲場、寺谷上堀、宝谷下モ、宝谷、加茂ノ宮、 寺谷、小谷、叶原奥、叶原、寺谷尻坪、寺谷尻、狼田川端
- 上梶屋、下梶屋、角田、下梶屋ウ子、上梶屋、下梶屋前、釜田八幡田、門連田、砂田、仮屋、宝谷田、仮屋川端、栃坂柳谷岩ケ谷尻、岩ケ谷、栃坂、樫谷、栃ノ木谷、畑ケ平、向場ケ原道ノ上へ、美土、美土上、美土峠、美土峠ノ下タ、美土川端美土道下タ、美土向、美土中新田、美土中川原上へ、中川原札場、札場前、桂木尻、美土峠ノ向、屏風岩、美土山ノ神谷美土西平

付 編

段たたら跡の地磁気年代について

島根大学理学部 時枝克安、伊藤晴明

1. 年式測定の仕組

地磁気は長短の周期をもつ変動成分を含んでいるが、その中には、時間が約10年以上たつと方向と強度に目立った偏倚が現れるような緩慢な変動があり、これを地磁気永年変化と呼んでいる。一方、窯や竈の例のように、粘土が加熱されると、焼土は土中の磁鉄鉱等を担い手として熱残留磁気を帯びる。熱残留磁気の方向は、加熱時の地磁気の方向に一致し、再加熱されないかぎり安定であり数万年程度経過しても変化しない。もし、焼土が再加熱されて磁鉄鉱等のキュリー温度(575度C)以上になると、それ以前の残留磁気は完全に消滅し、その時の地磁気の方向に新しい残留磁気をもつようになる。つまり、須恵器窯のような高温加熱体の熱残留磁気は、最終焼成時の地磁気を正確に、記憶、していることになる。

これらの事実から、もし地磁気の方向と年代のグラフ(標準曲線)が分っているならば、これを〝時計、の目盛として焼土の最終焼成年代を読み取れることになる。すなわち、地磁気の方向変化が時計の針の動きに相当し、焼成時の針の位置を熱残留磁気が記録する。標準曲線を求めるには、年代がよく分っている焼土から各時代の地磁気データを多数蓄積し、適当な短期間(~10年)の平均値をその時代(中央値)の標準点として定め次々と連ないでいく。幸い、日本では、広岡によって西南日本における過去2,000年間の標準曲線¹¹が報告されているので、この方法が焼土随伴遺跡の年代推定法として実用化されている。熱残留磁気による年代測定法の詳細については中島等による解説²²が参考になる。

2. 遺跡の概要と年代測定用試料

段たたら跡は島根県大東町下久野字段で発見された近世のたたら跡である。分布調査によって表土が取り除かれ、非常に焼成度の高い小舟の天井が露出された。熱残留磁気測定用の試料として小舟天井全面から28個の定方位試料を採取した。試料の採取方法には、柱状に整形した焼土に24×24×24mmの小プラスチックケースを被せて隙間を石膏で充填する仕方を用いた。また試料の方位測定にはクリノコンパスを使用した。

3. 測定結果

試料の残留磁気をスピナー磁力計で測定した。僅かに方向が逸れた2個のデータを除く

と、残留磁気の方向は非常によく揃う。揃ったデータの平均方向と誤差の目安となる数値 を計算すると次のようになる。

なお、 θ 55 は次に述べる円錐の頂角の半分に相当し、小さいほど測定誤差が少ない。すなわち、円錐の頂点はステレオ投影図の中心に、軸は平均方向に沿い、頂角は測定結果の95%を含むように選ぶ。Fisher の信頼度係数は大きいほど測定精度がよいことを示す。

残留磁気の平均方向

	I m (度)	Dm(度E)	K	$ heta$ 95 (度)	N
段たたら跡	42.18	3.63	1,654	0.70	26

Im:平均保角、 Dm:平均偏角、 K:Fisherの信頼度係数

 θ^{95} :95%誤差角、 N:有効試料数、

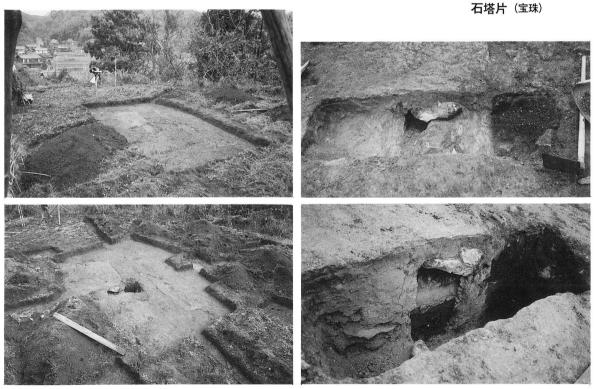
4. 考古地磁気年代推定

広岡 (1977) による 過去 2,000 年間の西南日本の地磁気永年変化曲線上に残留磁気の平均方向に近い点を定め年代を読みとることによって地磁気年代が得られる。年代誤差についても95%誤差角を参考にして同様に求めることができる。このようにして得られた地磁気年代は次のようになる。

段たたら跡の地磁気年代 A. D. 1720±15

註1 広岡公夫(1977) 考古地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向、第四紀古地研究、15巻、200~203

2. 中島正志、夏原信義 考古地磁気年代推定法、考古学ライブラリー9、ニュー・サイエンス社



段 た た ら 跡

(中央横断トレンチ)



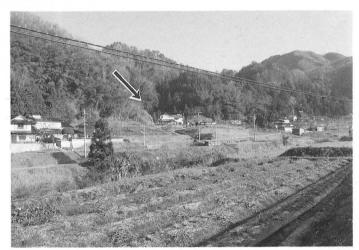
乗越付近出土 (石器)



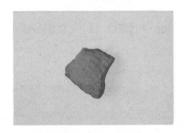
下梶屋遺跡



段出土(土師器)



大台遺跡



叶垣出土 (須恵器)



(後方より)



(前方より)

寺谷尻古墳



八幡奥横穴・古墳群遠景





711128

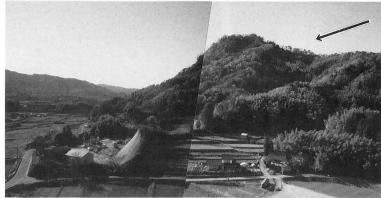
八幡奥横穴群(左・1穴開口、上・2穴落込み)



乗越の五輪塔



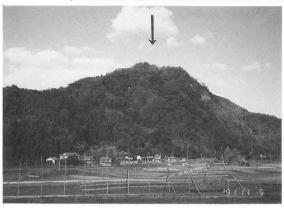
森の五輪塔



城跡と麓館付近

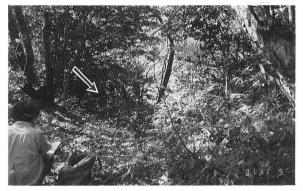
(堀切り群)

最頂部の巌頭



南より





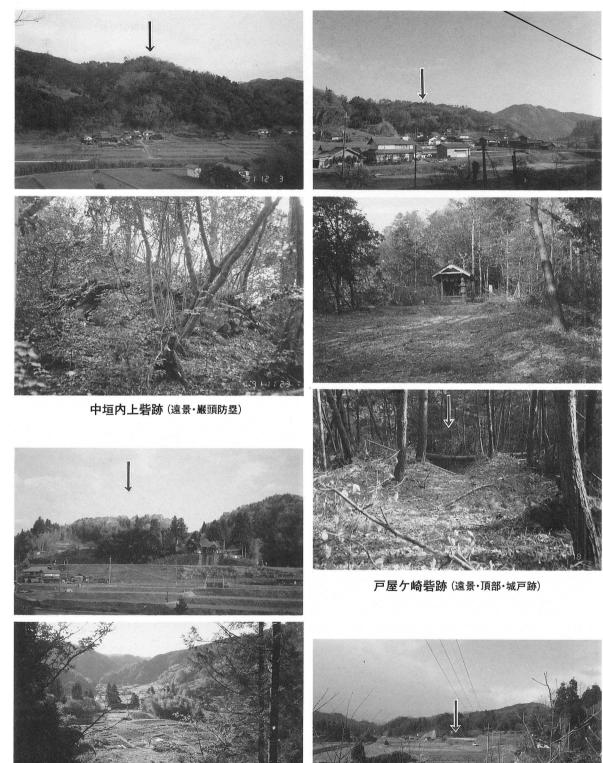




高丸城跡 (上・遠景、下・竪堀り)



寺山砦跡



殿居敷館跡(北から・東から)

上久野番所跡



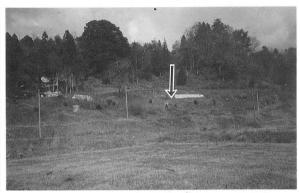
中鑪野だたら群



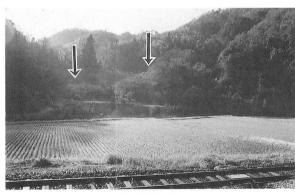
遠目野だたら跡



叶谷たたら跡



神ノ前たたら跡



栃坂たたら跡



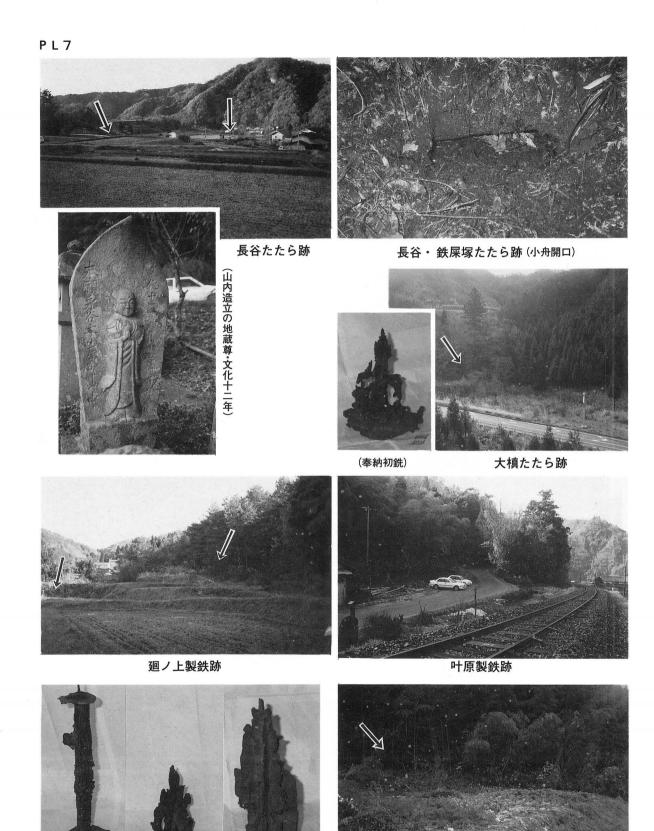
高橋たたら跡



小井谷たたら跡



一ノ瀬たたら跡



たたら山内遺品(燭台・初銑2点)

樫木原鍛冶跡

文化財調査報告書 大東町の遺跡IV - 久野 -

1992年3月

発行

大東町教育委員会 島根県大原郡大東町大字大東1673-1

印刷 曽 田 印 刷

島根県大原郡大東町大字大東1017-1

